

年度達成目標の達成について

1. 信頼される法人・施設ガバナンスを構築する

①社会福祉法改正初年度であり、新たな経営の考え方が示される中で戸惑いはあったが対応はできている。各理事は経営者としての意識をより高め、職員が希望を持って働き続けられる法人経営を目指します。

②法人・各事業所におけるガバナンス強化については、再確認、管理方法の変更等を行ったがうまく機能していない部分があり課題が残った。本部と各事業所のスムーズな意思疎通・情報共有できるよう、今年度も努力継続とする。

2. 地域共生を目指した活動を行う

①地域共生社会を目指した活動については、新たに地域・広報担当を創設した。主に地域諸団体活動に参加・交流、三世代交流カフェを立ち上げ等地域との良好な信頼関係は増進したと考える。

②各事業所においても地域共生思想の普及浸透でき、それ意識した活動が行われており、自主的な活動がたくさん芽ができたことは素直に評価できると思う。
※本来事業と地域共生活動とのバランス両立。各地域活動の担い手が限られ、その負担増に配慮が必要になっている。新たな課題にも対処していきたい。

法人本部事務部門達成目標

1. 信頼される法人本部の体制構築

①各種規定等を正しく理解し、適切なチェック・フィードバックを行う。

→ 規定の理解度は担当者にはばらつきが生じていて、統一感を持った運用まで至らず。職員間の意思疎通に課題あり改善に着手したい。

②経営判断に必要なデータ処理について、正確かつ早期に提供する

→ 会計ソフト更新時にアクシデントがあり、正確かつ早期の部分で課題が残った。但し修正対応はスムーズに行えた。

2. 職場での相互理解・意思疎通がより改善する為の活動を行う。

①職場内コミュニケーションを密にし、情報共有量を増やす。

→ 上記の行動に関しては、様々な働きかけは行ったが結果に結び付かず、改善できなかった。今年度は新たな体制で再構築する。

②各自職務の相互理解を推進し、相互補完機能を向上させる

→ 一部担当業務変更を行った。相互理解・補完機能は若干向上した。

法人本部用務部達成目標

1. 地域貢献に資する活動を深める。

①地域貢献を意識した活動の維持及び向上を目指す

→ 毎月のゴミ拾いの継続、「お役立ち」精神で適度な+αな活動も行い、地域貢献に繋がっている

②除・排雪作業の安全・的確な運用を行う

→ 当該年度より排雪作業も自前で行った。但し、安全面で重機を修理、横転が発生し、その後の作業に影響が出てしまった。幸いにも労災には繋がらなかった。

2. 各事業所の経営コスト削減に貢献する活動を行う

①各事業所の経営コストの削減、及び利便性の向上に繋がる活動を行う

→ 担当職員が代わり、各事業所の修理作業が増えて、業者への依頼が減少したことでコスト削減に貢献できている。

②各種修繕等の業者との調整業務等を行う

→ 当該年度より、業者調整業務も一部行ったことで、各事業所長の業務を軽減することに貢献できた。

行事等実績

平成29年5月22日 監事監査 場所 本部会議室
5月27日 旧役員会・評議員会
6月16日 新役員会・新評議員会 場所 ホテルライフオート札幌
7月 1日 広報誌「ほほえみの丘」第33号発行
7月30日 第24回ふれあい祭 場所 ケアハウス駐車場等
9月13・19日 監事監査 場所 各自宅
9月22日 役員会 場所 本部会議室
12月5・7日 監事監査 場所 各自宅
12月21日 役員会 場所 本部会議室
平成30年1月 1日 広報誌「ほほえみの丘」第34号発行
1月12日 法人合同新年会 場所 センチュリーロイヤルホテル
1月19日 ハート職員の無期雇用対象者に対する説明会
1月13日 「多様な正職員制度」職員説明会
3月16・17日 監事監査
3月24日 役員会・評議員会 場所 本部会議室

その他

- I 定期的に行うもの 本部会議（毎月第一木曜日及び随時）
法人本部事務部門 打合せ（毎日及び随時）
法人本部用務部門 打合せ（毎月及び随時）
安全・衛生委員会（毎月1回）
*健美操の実行、内部規定の検討等
- II 不定期に行うもの ①広報・ホームページ部会 年2回発行
②福利厚生部会
③ふれあい祭実行委員会
- III 研 修 ①4/22 新入職員研修 1回
②3.4年目・幹部研修 2回、
③在宅事業部 地域住民向け開放研修 1回
④外部研修
- IV 職員状況 用務1名 ケアハウスから異動
用務ハート 1名退職、1名採用
- V その他
*キャリアアップ助成金申請業務 11月提出
*職員メンタルヘルスチェック
*安否確認サービスの運用開始（全員登録出来ず）

< 主な議決事項 >

- ①前年度事業・決算報告 平成29年5月26日 理事会 承認
②理事長の選任 平成29年6月16日 理事会 議決
③給与規定の一部変更 平成29年9月22日 理事会 議決
④就業規則の一部変更 平成29年12月21日 理事会 議決
⑤介護・育児に関する規則の一部変更案 平成29年12月21日 理事会 議決
⑥給与規定の一部変更 平成30年3月24日 理事会 議決
⑦第1次補正予算案 平成30年3月24日 理事会 議決
⑧次年度事業計画・予算案 平成30年3月24日 理事会 議決
- ①定款変更 平成29年6月16日 評議員会 議決
②前年度事業・決算報告 平成29年6月16日 評議員会 承認
③理事・監事の選任 平成29年6月16日 評議員会 議決
④役員報酬規定案 平成29年6月16日 評議員会 議決
⑤第1次補正予算案 平成30年3月24日 評議員会 議決
⑥次年度事業計画・予算案 平成30年3月24日 評議員会 議決

平成29年度 入所児童数・年齢別児童数

(上段 標準保育人数 下段 短時間保育人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	9	9	10	10	11	12	12	12	14	14	14	14	143	12
	1	1												
1歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	216	18
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3		
2歳	23	23	23	22	21	21	21	21	21	21	20	20	288	24
	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	4	4		
3歳	26	26	26	26	27	27	27	25	25	26	26	26	324	27
	1	1	1	1				2	2	1	1	1		
4歳	27	27	27	26	26	26	26	26	26	27	27	27	324	27
				1	1	1	1	1	1					
5歳	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
合計	134	134	134	134	135	136	136	136	138	138	138	138	1,631	136

平成29年度 時間外保育利用延べ回数

(回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0歳	28	30	38	36	41	62	42	72	65	79	79	61	633	52
1歳	20	30	9	12	16	11	44	15	27	14	15	41	254	21
2歳	76	105	92	75	93	77	67	93	90	58	74	69	969	80
3歳	108	99	101	115	74	68	132	132	121	105	104	133	1,292	108
4歳	38	45	58	52	66	83	55	65	60	46	42	38	648	54
5歳	68	75	82	73	92	78	79	89	72	75	66	102	951	80
合計	338	384	380	363	382	379	419	466	435	377	380	444	4,747	395
内) 預かり児	0	2	2	1	1	0	1	2	7	9	3	1	29	2
内) 短時間	2	1	6	2	3	1	8	21	13	41	20	24	142	12

|

|

平成29年度事業報告

ケアハウス グリーンライフ光陽

特定施設入居者生活介護グリーンライフ光陽

平成29年度達成目標の結果(反省)

1. 個別支援の確立とそのための学習と、取り組みの充実

- ①研修で学習した事をフィードバックし、確実に業務に反映させる
反省 それぞれで参加した研修を個々の支援に反映させた
- ②個別支援計画書の充実(特にその人らしさからのプラン作成)
反省 光陽祭や3世代カフェでその人らしさのプランに沿った実践ができた
- ③28年度に引き続き、地域を意識した活動を取り入れる
反省 28年度の事例発表アンケートの元、活動ができた

2. アクティブで、明るい職場を皆で作る

- ①何でも話し合える職場⇒困難はみんなですべて解決する姿勢を示そう
反省 意見が出ない事もあったが、職員業務アンケートを取り解決できることは改善し、業務の再確認も行った
- ②いつでも注意し合える職場⇒自己を顧みて、受け入れる柔軟さを持つ
反省 入居者への言葉使いや態度について、文章化し再確認し、改善に繋げた
- ③入居者主体で考えられる職場⇒職員会議・ケース会議をはじめ、すべての会議で「入居者の自己実現」を基本にした運営をしよう
反省 ワーカー会議では活発な意見交換ができた

1. 月別入居者状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
男性	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	130	
女性	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468	
合計	49	49	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	598	
一般入居者	18	18	21	21	20	20	20	20	20	20	18	19	235	
特定入居者	31	31	29	29	30	30	31	31	30	30	32	31	365	
要介護認定者	40	39	39	39	38	40	43	42	41	41	41	40	483	
内訳	要支援1	5	5	5	4	4	4	6	7	7	7	6	5	65
	要支援2	8	9	9	10	9	9	9	8	7	6	6	6	96
	介護度1	15	13	13	13	13	16	17	15	15	15	16	16	177
	介護度2	10	10	10	9	9	8	8	9	9	10	10	10	112
	介護度3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	介護度4	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
	自立	9	10	11	11	12	10	7	8	9	9	9	10	115
入居者			2			1							3	
退去者		1			1								2	
入院者数	0	2	1	1	0	1	1	0	3	2	2	1	14	

2. 外出・外泊・面会者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
面会者	139	124	106	131	121	125	126	108	142	96	109	140	1467	122.3
外泊者	1	1	1	0	5	1	3	3	3	1	1	1	21	1.8
外出者	17	24	22	13	29	30	20	22	18	14	11	24	244	20.3

3.介護支援報告

1. 入居者自身の希望に沿った支援を心がける

①ケアプランを基に支援の充実を図る

反省 毎月のワーカー会議に於いての話し合いや、担当を中心とした対応策の検討などを行い、支援の実践ができた

②学んだことや知識・経験を活かす

反省 研修報告を受け、認知症への対応方法や学習療法の必要性における個別対応など取り組む事が出来ていた

③地域との繋がりを感じられる支援を意識する

反省 施設内行事を実施するにあたって、地域の方々へアピールをし、加えて参加していただくことができた

2. 業務に於いて自己実現できる(入居者・職員共に)環境づくりを目指す

①入居者・職員自身の成長につながる取り組みを行う

反省 主に担当が中心となって、入居者の思いを伺って対応した

②ミーティングや会議を充実させる

③日々の情報交換を活かす

反省 日々の業務中の何気ない会話に中での相談や、ワーカー会議に於いては活発な意見が出て対応方法の話し合いなどが行えた

4.健康管理支援報告

1. 地域の病院との連携を密にし、入居者が元気で生活できるようお手伝いをする、また、自ら研修に参加し自己改革する。

①受診時毎に、健康状態を的確に報告する

反省 近隣の病院との連携を密に行い伝達できた ミーティングごとに報告した

②研修に積極的に参加し、職員会議の中でそれぞれの業務に活かすよう広めていく

反省 各1回参加し、他の職員に発信した

「ふれあい」を通し入居者に健康情報を発信し、反響も良かった

2. 入居者の情報を職員間で共有できるように努める

①職員会議・ケース会議の中で、話し合いの場を持ち入居者の心身の安心に繋げていく

反省 職員間で共有が出来た

3. 感染症の発生予防に向け、入居者・職員間相互に活かせる活動を行う

①感染予防委員会に入居者も参加していただく

反省 2カ月の1度の委員会に2名ずつ参加していただき、入居者自身の意識付けに繋げた

②施設内研修を行い、スキルアップに繋げていく

反省 「肝炎ウィルス勉強会」「ノロウィルス吐物処理シミュレーションにてスキルアップした

③感染予防対策に向け、手洗い・うがい・食品の取り扱いを重点に啓蒙活動を進める

反省 個別指導等試みたが、入居者の危機感が感じられなく、改善されていない

※今年度の入居者のインフルエンザの発症は見られなかった

5. 相談支援報告

1. 個別支援の充実を目指し、入居者主体を意識した支援を行う

反省 職員対象に、ケアハウスの基礎的な研修を行った。個を知って頂く為に、入居前の環境や身元引受人の状況・経済情報を全国の平均的なケアハウス入居者と比較しながら説明し、入居者の理解とケアハウスの役割についてを深めていった

2. 地域貢献活動を行う

反省 昨年の町内会アンケートで確認した地域のニーズを基に、介護相談会・健康相談会を町内とも連携し、実施した。健康相談会では、「ふまねっと」開催時に行い参加者から好評をいただいた

6. 食事支援報告

1. 個別支援の充実と入居者の意見を取り入れた給食運営

反省 食べ慣れた和食を中心とした。
時折出る目先の変わったメニューは概ね好評だった
地域連携として弁当提供を町内会などに2回行った
歯科治療の為食事形態を変える方が多く、個別に変更献立を用意し、摂取量が低下しないよう工夫した
厨房職員の声掛け・協力により細かな対応をしていた

7. 機能訓練支援

○レクリエーション

1. 参加することが楽しみに感じられるように、入居者主体のレクリエーションを提案・実施する

反省 入居者にアンケートを行い、それに基づいて立案・実施した
また、実施中の入居者の言葉から「やりたいこと」を見つけ出し入居者主体のレクの実施をした

①無理のない個々のレベルに合ったレクリエーションの実施
反省 制作では、それぞれ行う内容を工夫して個々のあったものを提供した。完成が達成感に繋がりがかった
運動では、点数を競合うこともあり、内容に差をつけることは難しかったが、職員がフォローして行った

②地域活動
反省 光陽祭の製作として、地域のボランティアの方に参加・指導していただいた
公園のゴミ拾いやデイサービスとの合同レクで施設外のレクを実施した
地域のカラオケ外出は好評だった

レクリエーション参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1回目	15	12	15	14	23	17	13	16	13	17	15	11	181
2回目	11	14		25	12	14	16	18	12	12	13	18	165
3回目		17			17	14		10		21			79
4回目		6			11			9					26
合計	26	49	15	39	63	45	29	53	25	50	28	29	451

○体操

1. 日常に於いての運動機能の維持・低下防止ができる体操を実施し、情報を発信する。

①いきいき体操

反省 定番の体操の他、常に変化を加えた体操の効果を含め話し、行った例年に比べ、出勤人数によって実施出来ない日があった
嚙下体操は、新しい体操の情報収集をし実施した
訪問歯科により、口腔ケア・嚙下体操の大切さを発信できた

②ふまねっと

反省 施設内では簡単なステップを中心に無理なく行えた
町内会では冬場は寒いため参加率が下がった
地区センターでは時間が長すぎ疲れるとの訴えもあった

③ヨガ

反省 参加率は一定化し定着している。マンネリ化・内容の見直しの意見が出ている為検討する

④個別リハビリ

反省 担当中心に生活支援時などに目的に合わせたリハビリを行った

8.介護予防

1. レッツライ(全入居者対象)・アカデミー(認知症入居者対象)・グループアカデミー(軽度認知症入居者)、それぞれのグループに役割を持った活動を行う

反省 それぞれの役割を意識し、活動を行う事ができた

①レッツライ(全入居者対象) 音読・指体操・簡単な計算にて脳の活性化を図る

反省 脳の活性化について説明し、四季の曲を取り入れた指体操で季節を意識した活動ができた
参加者の定着が見られた

外出レッツ(大倉山)は、下見をする等十分な準備を行った。また家族の参加もあり、楽しまれていた

②アカデミー(認知症入居者対象) 個人に合わせた活動。負担ない問題提供で、進行予防・QOLの向上を図る

反省 当初は誘導時に拒否が見られた方もいたが、楽しみにしてくれる様になった

コミュニケーション能力向上があった

ペアや個人など個々に合わせた活動ができた

担当職員間での情報交換は行えたが、他職員との情報交換は職員会議での発表だけであった

いくつかの検査方法を実施し学習効果を数値化してわかりやすくした

③グループアカデミー(アカデミー対象者と予備軍を対象とし、自由参加) お茶を飲みながらコミュニケーション

反省 楽しんで活動ができた

参加人数が多くて職員一人では大変なこともあった

手作りタングラムは参加者のレベルに合わせて取り組めたまた、入居者からの提案もあった

9. 地域(統合ケア)交流

1. 地域との様々な交流行事や社会参加活動を通して、地域で暮らしていることが意識でき、楽しくハリのある生活ができるよう支援していく

反省 昨年度から実施している交通安全活動では、春に加え秋にも実施した
 地域での活動は少しずつではあるが、入居者自身意識して活動できるようになってきている
 日ハム観戦の参加者が2名と少なく、ドームの階段など高齢者には環境としては難しいようである

保育園児との交流(統合ケア)

月日	行事名	内容・反省など	参加者
6/15	お祭りごっこ	雨天のため、ケアハウス食堂にて実施(2年連続)	26名
6/22	みどり見会	高台公園にて、交流 カレーライスを食べる	34名
3/28	卒園見出前交流	卒園児の発表、出前の昼食で交流	45名

児童館交流

8/2	夏の児童館交流	七夕の短冊づくり。かき氷	23名
1/17	冬の児童館交流	室内運動会に児童を招待しての活動	32名

小学校との交流

5/23 ~25	春の交通安全週間	小学生が下校後、児童会館に向かう際に交通安全を呼びかけた。(15分程度)	延16名
10/13 ~31	秋の交通安全週間	小学生が下校後、児童会館に向かう際に交通安全を呼びかけた。(15分程度)	延12名
9/30	ふれあいフェスタ	作品展示は5名出展する。6名のうち2名は各自で参加する	6名
10/3・ 11・13	6年生クラスごとの交流	グループ毎に入居者への質問、手作りゲーム、折り紙やすごろくなどで交流 小学生に風邪症状が多数出て、日程の調整をした	平均 21名

その他

10/1	日ハム観戦	札幌ドームにて野球観戦	1名
5/28	たんぽぽコンサート	札幌大学吹奏楽部コンサート	2名
12/10	札幌大学定期演奏会	協賛無料チケット	1名

10. 研修

1. チーム・個々が研修で学んだ事を業務に活かす

反省 外部研修では、業務に対して意識向上につながった
 研修で学んだことを業務に取り入れ、良い支援ができた
 事例発表はチームに分け実施し、2月に発表した

○施設内研修

研修会の名称	講師・主催委員会など	月日	参加者数
入居者研修(和の文化に学ぶ)	ボランティア	7月5日	入居者27名参加
入居者研修(口腔ケア)	高輪歯科	8月9日	入居者26名参加
不適切ケアについて	身体拘束委員会	7月31日	職員17名参加
入居者の緊急対応	事故防止委員会	10月25日	職員16名参加
肝炎ウイルス勉強会	感染予防委員会	11月24日	職員15名参加
グリーンライフ光陽これまで・これから	施設長	11月28日	職員15名参加
嘔吐物シュミレーション	感染予防委員会	12月22日	職員15名参加
軽費老人ホームについて	相談員	12月28日	全職員

○施設外研修

研修会の名称	主催団体	開催月日	参加職種
周辺症状に振り回されないケア	全国高齢者施設看護師会	5月14日	介護職員
入所系介護職員研修	札幌シニア機構	5月25日	介護職員
軽費老人ホーム交流会	札幌市老人福祉施設協議会	6月7日	介護・看護職員
軽費老人ホーム交流会	札幌市老人福祉施設協議会	6月21日	相談員・栄養士
コミュニケーション接遇研修	札幌シニア機構	6月22日	パート介護職員
全軽協 職員基礎研修(東京)	全国軽費老人ホーム協議会	7月12・13日	相談員
リスクマネジメント	札幌シニア機構	7月20日	介護職員
全軽協北海道ブロック相談員研修会	全軽協北海道ブロック	8月8日	相談員・介護職員
学習療法特別講演会	北海道学習療法実践交流会	8月19日	介護職員
相談支援職員研修	札幌シニア機構	8月24日	相談員
生活における薬の影響と調整	札幌シニア機構	9月14日	看護職員
施設見学会(帯広)	全軽協北海道ブロック	9月6/7日	介護職員
全軽協北海道ブロック職員研究大会	全軽協北海道ブロック	9月29日	介護職員2名
認知症の支援を考える	札幌シニア機構	10月5日	介護職員
メンタルヘルス研修	札幌市社会福祉協議会	10月5日	主任
施設見学会(新得)	札幌市老人福祉施設協議会	10月6日	介護職員
全国老人福祉施設研究会議(高知)	全国老人福祉施設協議会	10月17・18日	介護職員
認知症ケアスキルアップ研修	札幌シニア機構	10月26日	介護職員
全道軽費・ケアハウス研修会	北海道老人福祉施設協議会	10月24・25日	主任・相談員
結核・感染症対策研修会	札幌市保健所	11月16日	看護職員
全国職員研究会議実践発表会(東京)	全国軽費老人ホーム協議会	11月29・30日	相談員

11.職員状況

- 退職者なし
- 入職者なし
- 育児休暇職員1名(2月1日復帰)

平成29年度末職員数17名

正職員—16名

施設長1名 相談員2名 介護職員10名 看護職員2名 栄養士1名 ケアマネジャー1名(兼)
パート職員—1名(介護職員)

平成29年度 特別養護老人ホームみどりの丘 事業報告

I. 特別養護老人ホーム みどりの丘 年度達成目標結果

1. 施設ガバナンスを構築する。

○自部署、他職種共にコミュニケーションを図りながら、各ミーティングや研修等を適切に行う。

⇒介護報酬改正に向け情報収集、分析を行い、費用対効果を職員と共に考え加算取得等の準備を行った。

介護職員退職者の発生、欠員補充困難により計画的な人材採用等には至らなかったが、中途採用者に対してはプリセプターシップでの人材育成を行った。また物品購入計画に沿って車椅子、特養車、食器等を購入した。

結果として特養は特例枠利用についての意見変更があったこと等から入所計画が変更となり大幅な減収となったが、短期入所生活介護の利用計画も変更となり、利用増で増収となった。

今年度は、日常の中での挨拶や声掛けを行い自部署、他職種共にコミュニケーションを図りながら、各ミーティングや委員会を適切に行い、内部研修等も計画通りに行った。

2. 利用者や職員が満足し笑顔になれる新たな活動を行う。

○各部署の具体的な取り組み活動を個人目標に反映させて考え実施、評価する。

⇒今年度はマニュアル作成、地域活動参加等を通じて各部署取り組み、個人目標にも反映させ実施した。地域との関わりとして、地域のボランティアの受入を行った所、輪が広がり沢山の地域の方がお越しいただき、うたの会の活動をしていただいている。ボランティアからも、「施設が自分たちの活動発表の場になっていて、楽しく活動させてもらっている」と、地域活動の場であり、入所者との交流の時間となっている。また、今年度は札大の活動や当法人ケアハウスで行われている三世代カフェへも参加し、地域活動への参加も実現できた為、来年度も継続して繋げていく。職員への誕生日プレゼント渡しも職員満足度が向上し、たくさんの笑顔を見る事が出来た。

II. 特別養護老人ホーム みどりの丘 各部門年度達成目標結果、状況報告

【 各部門年度達成目標結果 】

1. 介護部門

(1) 他職種・全職員間との報連相や情報収集を積極的にとり、委員会活動内や会議で問題解決をしていく。

⇒介護職、他職種共にコミュニケーションを図りながらミーティングや委員会を適切に行い、内部研修等も計画的に行う事が出来た。外部研修への参加が出来なかった為、来年度は認知症研修、リーダー研修参加予定。

後期から、各委員会ごとにマニュアル作成に取り組んだ。各委員会内での相談内容にあわせた助言や、報連相をとる機会が増えた。新たな課題もみえてきたため、来年度は解決出来るよう取り組んでいきたい。

(2) 利用者に合わせてケアを理解し、状況や状態に合わせてながら、笑顔や満足に繋がる見直しをしていく。

⇒介護職員退職者の発生、欠員補充困難により計画的な人材採用には至らず。

緊急シフト等で動くことが多くあり、介護職員主体での個別行事や外出の計画・実施が難しい状況であった。他職種協力の元、レク実施出来る事が多かった。

後期では、比較的職員や業務が落ち着いてきたため、公休内ではあるが連休希望をつける事が出来、満足に繋げる取り組みが出来た。

2. 看護部門

- (1) 入居者が安心して生活、健康維持ができるよう看護師の専門性を活かしながら、多職種との連携を強化する。
⇒協力病院や医師と連携を図り、適切な看護診断の実施、入居者の健康管理に努めた。
- (2) 施設における感染症知識を深め、他職種との協力体制を整えることで全体の質を高める。
⇒保健所からのお知らせを基に感染症の予防対策等を周知徹底し、他職種と協力することで入居者への感染はみられなかった。

3. 生活相談部門

- (1) 短期入所定員4、2名以上、入退所期間が30日以内となるよう努める。また、定期的にミーティングの機会を設け、月目標等を定め、短期的な目標達成の取り組みを行っていく。
⇒今年度は退所24名(内 看取り 13名)入所21名対応。11月から入所60床で受入とした為、その時点からの平均入退所期間は27.8日となった。
短期入所も11月から10床受入とした為、平均6.0名以上の目標に変更したが、平均5.1名との結果となった。
要介護3以上の入所となり、入所時点で重症化しているケースが多く、在所期間も短くなってきている為、それに合わせた対応に努めていく。
- (2) 地域活動への積極的参加や、新たな機関(大学・学校等)と交流を行い、新たな世代の施設理解に努める。
⇒今年度は地域との関わりを主に活動を行い、地域のボランティアの受入を行った所、輪が広がり沢山の地域の方にお越しいただき、うたの会の活動をしていただけている。ボランティアからも、「施設が自分たちの活動発表の場になっていて、楽しく活動させてもらっている」と、地域活動の場であり、入所者との交流の時間となっている。また、今年度は札大の活動や三世代カフェへも参加し、地域活動への参加も実現できている。

4. 介護支援専門部門

- (1) 地域を活用したインフォーマルなサービスを取り入れプランに反映し、入居者の楽しみを提供できるよう多職種と連携し実施していく。
⇒145ケースのサービス担当者会議を開催し、19名の看取り介護に関わり、26名の経口維持加算の管理、全入所者の日常生活継続支援加算の管理を適切に実施する事ができた。
家族の協力等インフォーマルな支援を取り入れ入居者にとっての安心した生活や、天気の良い日に中庭へ花見に行く等、野球観戦等の個別のレクリエーションや外出等の支援を実施する事ができた。結果、満足、笑顔に繋がるサービス提供を行なう事ができた。
- (2) 福利厚生を幅広く、職員が働きやすく楽しめる環境作りを行なう。
⇒職員の福利厚生として新たに誕生日プレゼントを提供し、実施後のアンケートで100%の満足の声が出された。

5. 栄養部門

- (1) 入居者の情報を、他部署と情報共有し、個人の嚥下能力に合った食事を提供していく。
⇒入居者の情報を、他部署と細やかに情報共有し、個人の嚥下能力に合った食事を提供できるよう随時連携を取り、適切に行った。
- (2) 食材費の上昇を抑えつつ、可能な範囲で旬の食材、生の食材を取り入れた献立を提供する。
⇒食材の見直し、変更を行う中で旬の食材、生の食材を取り入れた献立を提供し、利用者にご喜んでいただいた。そして食材費の減少につなげることができた。

6. 機能訓練部門

- (1) 他職種と話し合いながら情報共有や評価し、機能訓練をおこなっていく。また他職種にも協力し話し合い、利用者の満足感と笑顔になる支援に努める。

⇒機能訓練の実施記録用紙を介護職と話し合いながら改善し、適切に機能訓練が実施できるように努めた。

普通型車椅子にて座位姿勢の維持が難しくなる入居者が増えた。リクライニング車椅子にすることにより姿勢が良くなり、姿勢の維持が出来るように努めた。他職種と相談し車椅子を購入（今年度はリクライニング車椅子7台、モジュラー型車椅子1台購入）できたことにより、利用者のADL（食事動作で誤嚥性肺炎の予防など）やIADL（外出喫茶など）の向上につながり満足感や笑顔につながった。

(2) 散歩や会話、道具（物）などでこころ（五感）を刺激していく。

⇒見当識の向上のため、入居者と貼り絵で作成した「〇月」の看板を何月が分かるようにホールに掲示や、散歩やお花、野菜、スイカ、りんごなどをできるだけ多くの入居者に見て触っていただき、季節が分かるように努め、笑顔や驚きなど刺激することができた。

【 状況報告 】

1. 年齢別状況

平成30年3月31日現在

	60歳～	70歳～	80歳～	90歳～	100歳～	合計	平均年齢	最高年齢
男性	1人	4人	3人	0人	1人	9人	79歳	102歳
女性	0人	6人	20人	19人	3人	48人	88歳	104歳
合計	1人	10人	23人	19人	4人	57人	86歳	

※57人（内 特例利用 男性0人 女性0人）

2. 入所者要介護度

平成30年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計 入所者数	平均 要介護度
入所者 数	0人	1人	11人	21人	24人	57人	4.1

3. 入退所状況

(1) 入所元

(単位：人)

	病院	老健	ケアハウス	特養	在宅	ショートステイ	グループホーム	高齢者住宅	合計
男性	1	1	0	0	0	0	0	0	2
女性	10	4	0	1	2	1	1	0	19
合計	11	5	0	1	2	1	1	0	21

(2) 退所理由

(単位：人)

	長期入院	死去（看取り）	その他	合計
男性	1	2（2）	0	3（2）
女性	10	11（11）	0	21（11）
合計	11	13（13）	0	24（13）

4. 入所者ADL状況

在籍者57人 (入院者0人)

平成30年3月31日現在

		自立	一部介助	全介助
食 事	経口	17人	17人	21人
	胃ろう	0人	0人	2人
移 動	車椅子	2人	12人	32人
	歩行器	1人	2人	0人
	歩行	1人	5人	2人
入 浴	一般浴	0人	5人	0人
	リフト浴	0人	20人	20人
	特浴	0人	0人	12人
排 泄 (日 中)	見守り	0人	3人	0人
	トイレ誘導	3人	16人	11人
	オムツ交換	0人	0人	24人
排 泄 (夜 間)	見守り	0人	2人	0人
	トイレ誘導	3人	7人	1人
	オムツ交換	0人	0人	44人

5. 短期入所月別利用者状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	124	138	145	168	180	133	117	103	174	198	215	242
1日平均	4.1	4.4	4.8	5.4	5.8	4.4	3.7	3.4	5.6	6.3	7.6	7.8

※平成29年度1日平均短期入所利用者数・・・5.3人

6. 入所待機者状況 (平成30年3月31日現在)

(1) 待機者数 106人 (男性 41人、女性 65人)

(2) 待機場所別

	老 健	療養型	病 院	在 宅	その他
待機者数	35人	1人	36人	22人	12人

(3) ランク別

	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	不 明
待機者数	3人	66人	34人	0人	3人

7. 入所者の健康管理状況

<受診状況>

平成30年3月31日現在

内科	282人	循環器	10人	眼科	1人
整形外科	15人	脳外科	35人	皮膚科	25人
外科	1人	泌尿器	22人	耳鼻科	5人
神内	8人	歯科	346人	婦人科	2人
精神科	7人	肛門科	0人	延合計	759人

<入退院状況>

	延人数	日数	平均入院日数
内 科	81人	1243日	15日
脳外科	0人	0日	0日
整形外科	4人	89日	22日
循環器科	0人	0日	0日
泌尿器科	6人	34日	5日
歯 科	0人	0日	0日
精 神 科	0人	0日	0日

8. 人所有者機能訓練実施人数

	延べ人数	日数	平均(1日)
個別訓練	1,332	237	5.6
集団体験	7,552	236	32.0
作業療法(手作業・塗り絵)	309	55	8.5
(工作)	232	40	5.8
園芸療法	96	12	8.0
音楽療法	720	24	30.0

9. ボランティア活動状況

- (1) 登録者数 ⇒ 定期 ～ 30人
 随時 ～ 豊平区社協、その他各ボランティア団体、個人ボランティア
- (2) 延活動件数 ⇒ 517件
- (3) 内容 ⇒ 月行事、クラブ活動、介護補助など

みどりの丘デイサービスセンター

平成29年度事業報告

① 平成29年度 達成目標・結果

1、やりがいを持ち、楽しく働ける環境作り

- ・情報伝達や情報共有を意識し、利用者一人一人の介助内容を考え細やかに対応でき大きな事故なく安定した業務遂行ができた
- ・デイサービスの目を楽しみにしている、楽しく過ごしているとの話が多く聞かれやりがいに繋がった
- ・新しいことへのチャレンジが少なかったり、チャレンジはしたが継続することまでには至らなかった
- ・利用者の異常（いつもと違う）の早期発見には頑張って目を配ったこともあり、感染症の蔓延や大事には至らないケースが多かった

2、地域のニーズを把握するための活動、利用者・家族に満足していただけるための活動を行う

- ・利用者・家族の要望、依頼についてはケアマネと意見交換を交わしながら出来る限り対応し喜ばれることが多かった
- ・利用者の様子を連絡ノートや送迎時に口頭で伝えることを強化し、日頃の関わりから利用者・家族との信頼関係は良好と思われる
- ・個別機能訓練に関しては効果を実感してもらえており、希望者も増えているが訓練士の時間帯により希望に添えないこともある
- ・満足度アンケート結果から見ても、概ね満足していただけたと思う

② 各部門達成目標・結果

<介護部門>

1、一人ひとりが向上心を持ってステップアップし、安定した業務遂行ができる

- ・情報伝達や共有を意識し、利用者一人一人の介助内容を考え対応でき大きな事故なく安定した業務遂行ができた
- ・時間に追われがちで新しいことへのチャレンジが少なかった。チャレンジしても継続して実施することはできなかった

2、利用者や家族のニーズを把握・支援し、日頃の様子を家族に伝えることで信頼を得る

- ・各職員の対応が利用者やその家族から大きな苦情がなかったことを考えると信頼関

係は良好だと思う

・利用者の様子は連絡ノートを生かし、送りの際は口頭で伝えるなど出来ていた

<看護・機能訓練部門>

1、他職種が連携を図り、情報を共有し統一した関わりを通じ、利用者の異変にいち早く気づくことができる

・他職種との連携の部分では不十分さを感じるが、利用者の異変・異常の早期発見は頑張ったと感じている

2、看護・理学療法の視点から利用者や家族のニーズを把握し、より効果を実感してもらえる生活リハビリの実施

・理学療法士が不在の時には協力体制をとるよう心掛け、意識をもち対応できた

・効果を実感してもらえているし、実際に動きが良くなってきていると感じる事ができる

<生活相談部門>

1、「来てよかった」「行きたい」と言われる関わりを持ち、選ばれるデイサービスになる

・デイサービスに行く目を楽しみにしている・楽しく過ごしているとの話が聞かれ目標は達成できていると思う

・満足度アンケート結果で満足していると多くの意見をいただいた

2、利用者の家族からの相談やケアマネジャーとの情報交換を積極的に行い、利用に繋げられる

・利用者・家族の要望には現場の職員やケアマネジャーと情報交換を繰り返し、応えられるように調整した

③ 平成29年度月別平均利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	21.2	20.8	19.7	19.5	19.5	17.9	18.8	18.5	19.9	17.4	16.9	17.1
介護予防	4.7	4.7	4.8	4.4	4.7	4.2	4.5	4.8	4.3	4.3	4.5	4.6
平均合計	25.9	25.5	24.5	23.9	24.2	22.1	23.3	23.3	23.2	21.7	21.4	21.7

平成29年度一日平均利用人数 23.4人 通所介護 18.9人 介護予防通所介護 4.5人

④ 実施行事

5月 花見ドライブ 6~8月 喫茶外出 8月 合同レク 9月 敬老会

10月 紅葉ドライブ 11月 合同レク 100歳祝賀会 12月 年末お楽しみ会

他に保育園や児童会館の子供たちとの交流、中庭散策、日向ぼっこ等を行いました。

リハビリデイサービス ふあいと

平成29年度事業報告

I 平成29年度達成目標について

1. 各種規程・書式・各種管理に関する改善・ルールに関する構築を図る
◇マニュアルに関しては、各部署でわかり易く整備することが出来た。また、マニュアルを都度確認しながら仕事をするという意識づけができ、マニュアルの必要性を再認識した。
2. 利用者満足度・職場満足度の向上
◇身体状況の改善、新たに出来るようになったことがあれば周囲の方にも知らせる活動を各部署でおこなっていたように思う。職員間で利用者の改善度がわかるように知らせる活動は映像などで説明したが、一部の利用者しかすることしかできなく、今後の課題となった。

II 各部門達成目標について

生活相談部門達成目標について

1. 利用者の自宅での生活状況がどの職員にも伝わり、想像できるような記録を残していく。
◇モニタリングは継続しておこなってきたが、機能訓練士の空いている日時と予定のすり合わせが難しく、ほとんどを相談員でおこなった。
一度の訪問時間が長くなり、話を聞くという点では良かったが、記録まで手が回りづらい状況になっていた。今後は一度の訪問を30分程度とし、前回までの記録を参考に聞き取りをおこなっていく。
各職種がわかりやすいような記録については今後も検討していく。
2. ふあいと便りの更なる内容の充実を図り、行事やトレーニングに関する情報を外部へ発信していく。
◇トレーニングは載せられなかったが、行事は載せることが出来ている。訪問時、家族のみでなく、ケアマネから記事の感想を聞く機会も増えて来ている。今後は他職種と連携し、トレーニングについても載せていきたい。
訪問時、家族やケアマネと会う機会も多くなり、日常でのちょっとした変化や、参加した行事のこと、趣味活動への参加状況を伝えている。ご家族、ケアマネが喜んでいる姿を見ることが出来た。

機能訓練部門達成目標について

1. 機能訓練全般に関するマニュアルの見直しや整備をすすめる
◇トレーニング関係やリスク管理、機器のメンテナンスなどのマニュアルを随時見直し、整備する事ができた。
2. 身体状況の変化や新たな取り組みの様子を誰もがわかるように形で記録し、提供する。
◇訪問時に伺った環境整備や自宅の様子を主に写真に収め、ケース会議時に他のスタッフにみせることができた。運動の様子などの撮影をすることはできなかった。

看護部門達成目標について

1. 看護についての情報の記録を充実させ職員間と有効な情報交換し、看護業務をマニュアル化していく。
◇看護マニュアルを改訂し、その他手順書、図表の整備なども順次作成した。途中担当看護師が不在となってしまった、それまでの記録や作成された資料により、看護業務を遂行できた。他職員も活用することができ整備されているように感じた。
2. 生活リハビリの目標と長期でみた効果を比較できるように、様子や数値などで具体的に表すようにし本人や家族、職員間で共有する。
◇生活リハビリをおこなう利用者からは、転ばなくなった等の感想もあり、少数であったが効果のあった方も見受けられた。職員間の共有といった部分では看護師からは不十分であった。生活リハビリの効果を具体的にどう表すかについては、今後の課題となった。

介護部門達成目標について

1. 介護業務を明確に書式化・更新し職員全員が共通理解の下、安定した介護サービスを提供する。
◇業務確認事項や送迎マニュアルを作成し、どの職員でも同じ対応ができるようにした。日々変わっていく内容や情報も定期的に更新をおこなった。
2. 利用者の改善度や挑戦していることを職員が共有し、他職種とも連携を取りながら発信していく。
◇掲示板を活用し、行事や日常の写真を掲示するなどした。利用者の作品コーナーでは季節に応じたものを作成して頂いた。掲示した写真は家族にお渡しするなど、ふぁいとでの様子を発信したが、改善度についての働きかけはできなかった。

Ⅲ 月別平均利用者数状況

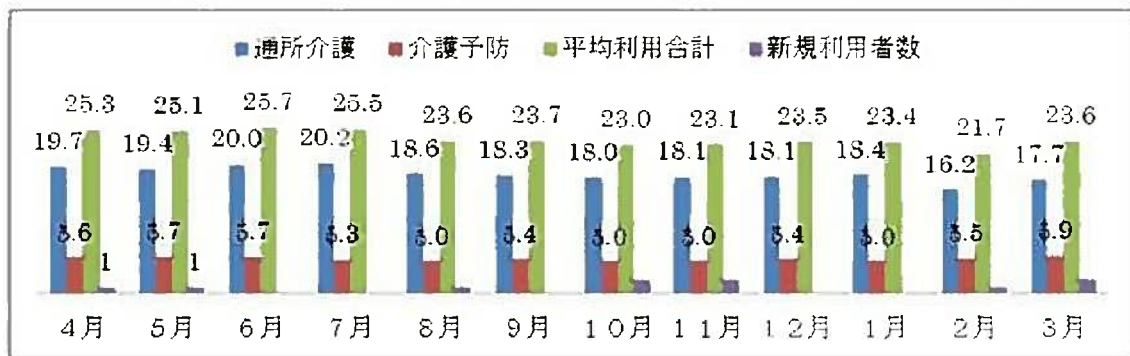
平成 29 年度平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	19.7	19.4	20.0	20.2	18.6	18.3	18.0	18.1	18.1	18.4	16.2	17.7
介護予防	5.6	5.7	5.7	5.3	5.0	5.4	5.0	5.0	5.4	5.0	5.5	5.9
平均利用合計	25.3	25.1	25.7	25.5	23.6	23.7	23.0	23.1	23.5	23.4	21.7	23.6

平成 29 年度新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通所介護	1	1	0	0	1	0	1	2	0	0	1	2
介護予防	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
新規利用者数	1	1	0	0	1	0	2	2	0	0	1	2

平成 29 年度 1 日平均利用者数 23.9 人
 新規利用者数 10 人
 通所介護 18.5 人
 介護予防通所介護 5.4 人
 介護予防通所介護 1 人



Ⅳ リハビリ・トレーニング以外の活動について

ふぁいとスクール（脳トレーニングを中心とした活動）を行ないました。①計算問題②漢字書き取り③ペン習字④塗り絵⑤クロスワード問題⑥カラオケ等を行なった。
 希望や趣味などを踏まえて、個別の希望にあわせた内容を提供した。

Ⅴ 行事について

年回 7 回の行事を実施。

- | | |
|-----------|-------------|
| 6 月カラオケ外出 | 6 月統合ケア |
| 8 月外食 | 9 月敬老週間 |
| 10 月統合ケア | 12 月年末お楽しみ会 |
| 3 月統合ケア | |

平成29年度 ヘルパーステーションふぁいと 事業報告

□平成29年度 ヘルパーステーションふぁいと 達成目標

1. ヘルパーの役割を改めて考えることで、適切な支援を送ることができる

ヘルパーの支援内容に疑問や相違、もしくは変化が見られたときにはこまめに、ケアマネに連絡を取り、改善の提案等を行った。ケースによってはスムーズに行く場合もあったがなかなか現場の声を受け入れて頂けず苦勞したケースもあった。
初回訪問で、依頼内容やケアプランと相違が出るケースも増えてきたので、ヘルパーとして内容を見極め、判断をしていく努力が必要であり 本当に必要な支援を必要としている利用者を実施できるよう事業所として、もっと声を出していく必要を感じた。

2. 職員が総合事業を理解して支援を行うことで、利用者に安心した生活を送ってもらえる

現場が混乱することなくスムーズに移行できた。ただ、本当に総合事業として、生活支援が必要なのかその内容に対する評価をしてきたが、ケアマネに受け入れてもらえないケースもあり、総合事業の理解に職種間での相違を感じた。
請求に時々エラーがあり、再度確認しながら進める。

□研修・会議等

1 研修

- 法人内研修/在宅事業部・・・年2回の研修には登録ヘルパーの参加率が低下してきた。
登録ヘルパーの高齢化で夜間時間帯の出席が難しくなっている
- 事業所内研修の充実・・・研修計画に基づいた研修を、会議ごと実施。
職員が主体となって研修に取り組めるように、事例検討等取り入れたことで、能動的に研修に参加できた
- 外部研修～各種外部団体研修・・・常勤2名参加。
登録ヘルパー不足で常勤ヘルパーが外部研修に参加する機会が持てない現状を、解決できなかった

2 会議

職員会議(月1回 第4木曜日)、在宅事業部会議(月1回)、ケース会議(適宜)、サービス担当者会議への出席(サービス提供責任者)

3 その他

- 満足度調査・・・7項目のケア内容に対して、全項目85%以上に満足を頂けた
また不満足がなく、コメントにも批判的、苦情内容は記載されず
長年関わってきた利用者、家族にも誠意が伝わっていることを実感できた
- その他 職員健康診断、インフルエンザワクチン接種、
介護サービス情報公表制度への対応

□年間利用者数

平成29年度

内訳	訪問介護	1,674回
	介護予防訪問介護	1,538回
	総合事業	1,765回

登録ヘルパーが2名退職後の補充ができていない中、稼働実績は昨年同様となった。
H29年4月以降総合事業開始のため事業の閉鎖等の影響あり。新規の問い合わせが増えている。

■ 平成 29 年度 達成目標について

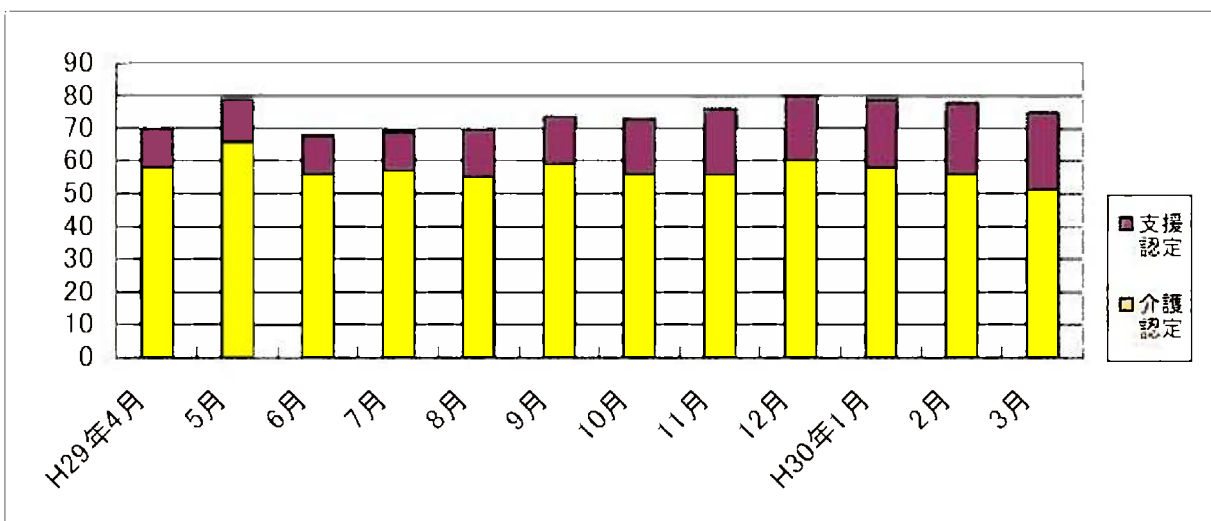
- (1) 事業所ガバナンスを再構築し、規律ある事業所運営を行う
 - 使用する書式を見直し、適用を開始した。
 - 特定事業所集中減算適用とはならず経過することができた。
- (2) 地域ニーズに応じた活動の実行・強化を目指す
 - 地域向けの相談会を開催できたが、1回に留まった。
30年度も開催を予定している。
 - いわゆる困難ケースについて区や包括と連携しながら対応することができた。

■ 活動内容・業務実績

- (1) 相談業務
 - ⇒ 訪問・電話連絡の方法を中心に、可能な限り迅速に対応した。
- (2) 居宅サービス計画書（ケアプラン）の作成
 - ⇒ 担当利用者について個別地域ケア会議を開催するなど、地域の課題として取り組むケースが増えてきている。
 - ⇒ 要支援認定者の予防サービス調整は増加（昨年度 146 件、今年度 203 件）。
- (3) 居宅訪問
 - ⇒ 随時・適宜に訪問を行うようにし、柔軟に対応をした。
- (4) 関係機関との連携
 - ⇒ 各福祉機関との連携を図り、都度・適宜の情報交換を行った。
- (5) その他
 - ⇒ 介護支援専門員の現場実習生の受け入れを昨年同様実施した。

■ 給付管理・ケアマネジメント件数

- ⇒ 年間給付管理数：891 件（内 要介護者：688 件、要支援者：203 件）
- ⇒ 前年度に比べ「要介護認定者」は減、「要支援認定者」は増の結果となる。
- 《月別給付管理数》 月平均：要介護者 57.3 件、要支援者 16.9 件（下記グラフ参照）



平成 29 年度 札幌市豊平区介護予防センター西岡 事業報告

■ 平成 29 年度 達成目標について

- 1、地域ニーズ、社会的要請に応じた事業展開を計画・実行する
 - ①区・社協・まちづくりセンター・地域包括支援センターとの連携を深められた。
 - ②ふまねっと教室は着実に地域に根付いており、自主化が進んでいる。
 - ③西岡地区地域ケア会議・個別地域ケア会議・地区連絡会議を予定通り開催した。

■ 活動実績

(1) 介護予防活動 <すこやか倶楽部（介護予防教室）・転倒予防教室・認知症予防教室>

	開催数	参加者数	活動内容
H29/4月	12回	122名	ふまねっと／折り紙倶楽部／絵手紙倶楽部
5月	11回	207名	ふまねっと／ノルディックウォーキング／絵手紙倶楽部
6月	15回	319名	ふまねっと／折り紙倶楽部／演歌体操
7月	16回	344名	ふまねっと／ノルディックウォーキング／盆踊り
8月	13回	253名	ふまねっと／姿勢学／折り紙倶楽部
9月	15回	736名	ふまねっと／折り紙倶楽部／健康セミナー
10月	10回	181名	ふまねっと／歌の会／折り紙倶楽部
11月	13回	325名	ふまねっと／歌の会／クリスマスリース作り
12月	12回	254名	ふまねっと／健美操／こりめ脳活体操
H30/1月	8回	153名	ふまねっと／折り紙倶楽部／歌の会
2月	12回	244名	ふまねっと／転倒予防体操／カーリンコン
3月	11回	219名	ふまねっと／折り紙倶楽部／姿勢学
合計	148回	3357名	

(2) 地域支援事業

- 介護者の集い（毎月第2金曜日に開催）
⇒合計 90名の介護者が参加
- 老人クラブ（楽寿会・友和会・喜楽会など）への支援
⇒定例会に参加。健康講話や介護予防に関する情報を提供する。
- サロン活動への協力
⇒夢クラブ（ライオンズ町内会）、あえーる（2区中央町内会）、
サロンさくら（さくら町内会）、サロン・ド・あかしや（あかしや町内会）、
いきいきクラブ（クローバー町内会）、西岡4丁目健康サロンへの参加・協力。
- 福祉のまち推進センター執行幹事会、西岡音頭普及会
⇒毎月参加。

(3) 相談対応

- 地域の高齢者からの相談対応（訪問／電話／面接）
⇒合計 75件の介護予防等に関する相談に対応する。